



豊玉二中だより

令和4年度 第3号
発行日 6月8日(水)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

家庭学習の力をつける

校長 神山 信次郎

5月28日(土)、第61回60周年記念運動会が終わりました。生徒が主体的に運動会に取り組むひたむきな姿が多くの人に感動を与えるとともに、生徒自身も充実感や達成感、所属感などを味わうことができた運動会になったと思います。そして、ぜひ、この思いを学校生活に活かしてほしいと思います。

さて、気がつくとも、後10日で定期考査が始まります。ここで、気持ちを切り替え、しっかりと準備をしてテストに臨むようにしたいものです。テストは、授業を完全理解していればテスト前だからといって慌てる必要はないのですが、現実にはそんなに甘くはありません。中学校に入ると勉強の内容が高度になり、身につける事柄も盛りだくさんです。また、学年が進むにつれ学習の進度も速くなります。学習の内容が身につけているか、忘れていないか、常に自分自身で確認し不十分なところは取り戻す努力をしなければなりません。勉強の秘訣というのはありませんが、大切なことは授業に集中し理解に努めることです。また、学習で学んだことをきちんと身に付けるには、家庭学習を習慣化し、毎日コツコツと努力を積み重ねていくことが必要です。

エビングハウスというドイツの心理学者は、人間の記憶について研究を行いました。それによると人間の忘却(忘れること)には個人差がほとんどなく、一度覚えた内容も20分後には42%を忘れ、1時間後には56%を忘れ、1日たつと74%を忘れてしまうそうです。つまり、学校で学習したときには分かったつもりでいても、1日過ぎれば4分の1しか覚えていないということです。その後は忘れる量が少しずつ減少していき、一週間後には77%を忘れ23%が記憶に残るそうです。

このことを考えると、学習を終えた直後が最も忘れやすいこととなります。ただし、学習後すぐに復習することで忘却率(忘れること)が低く抑えられることも分かっています。これは、学校で勉強したことは、その日のうちに復習することが最も有効であるということを示しています。毎日の家庭学習が学力の定着には不可欠であるということがわかります。

家庭学習の前提には、「自分の力で勉強する」ということがあります。勉強というのは、本来、一人で考え一人で問題を解決していく「自学自習」の姿勢が基本になっています。中学生になったら「与えられた勉強」から脱皮して「自分でやる勉強」に切り替えていく必要があります。学校では、時間割が決められ学習の進め方も先生が決めてくれます。家庭学習は、自分で予定を立て、自分の時間割を造らなければなりません。どこで始め、どこで終わるのか、学習ペースも自分次第です。意思が強くないと家庭学習はなりたちません。今、そうした力をしっかりとつけるときです。頑張れ中学生!

